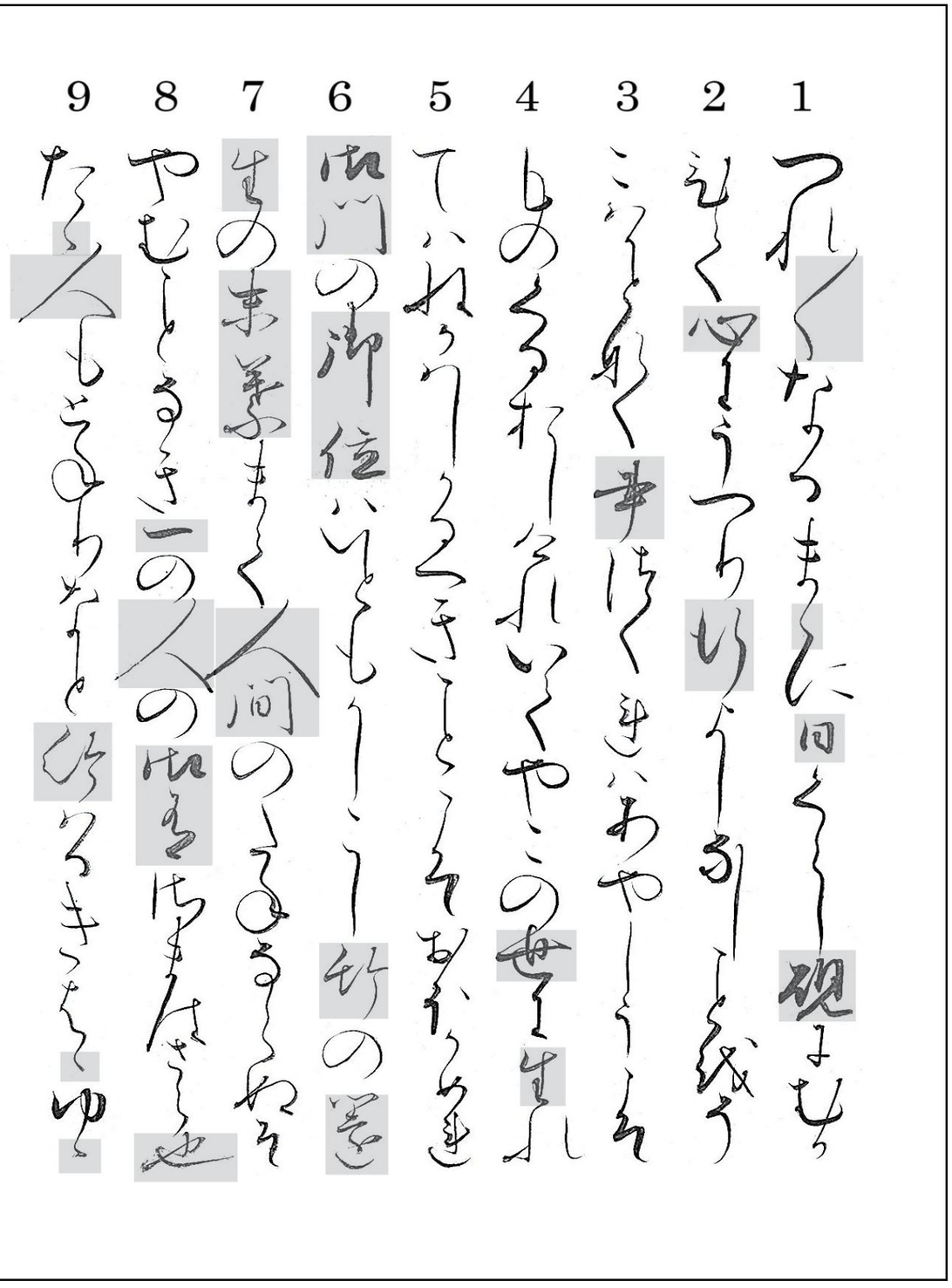
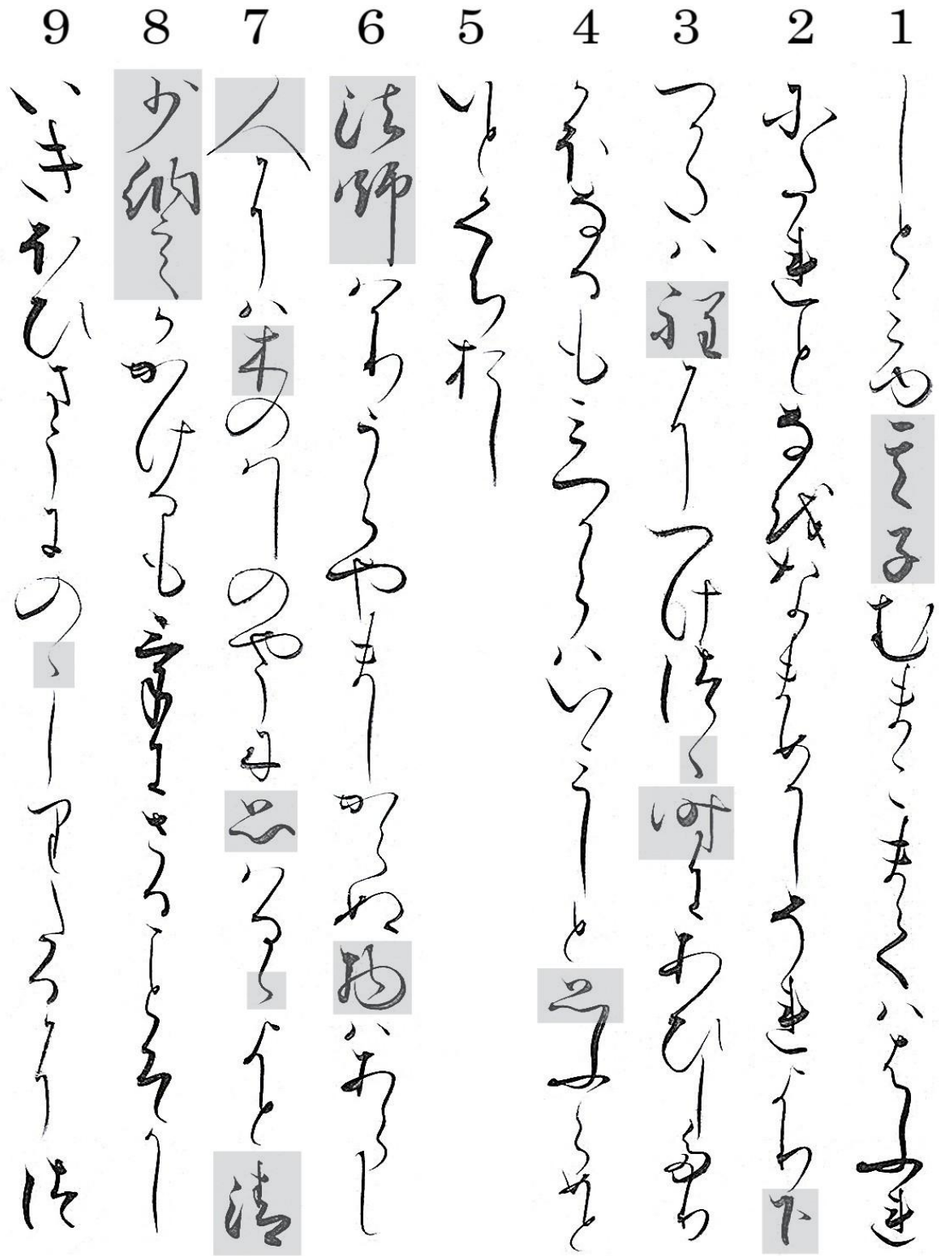
『徒然草』解答



【序段】つれ〴〵（づれ）なるまゝ（ま）に、日ぐらし、硯にむかひて、心にうつり行（く）よしなしごとを、そこはかとなく書つくれば、あやしうこそものぐるおしけれ。【第一段】いでや、この世に生れては、ねが（願）はしかるべきことこそおほ（多）かめれ。御門の御位は、いともかしこし。竹の園生の末葉まで人間のたね（種）ならぬぞやむごとなき。一の人の御有さま（様）はさら也（なり）、たゞ（だ）人も、とねり（舎人）など給はるきは（際）ゝ（は）、ゆゝ（ゆ）

1 つれ〳〵なるまゝに日くらし硯にむか
2 ひて心にうつり行よしなしことをそ
3 こはかとなく書つくれはあやしうこそ
4 ものくるおしけれいてやこの世に生れ
5 てはねかはしかるへきことこそおほかめれ
6 御門の御位はいともかしこし竹の園
7 生の末葉まて人間のたねならぬそ
8 やむことなき一の人の御有さまはさら也
9 たゝ人もとねりなと給はるきはゝゆゝ

『徒然草』解答



1 しとみゆ其子むまこまてはふれ

しとみ（見）ゆ。其〔の〕子・むまご（孫）までは、はふれ

2 にたれとなをなまめかしそれより下

にたれど、なをなまめかし。それより下

3 つかたは程につけつゝ時にあひしたり

つかたは、程につけつゝ（つ）時にあひしたり

4 かほなるもみつからはいみしと思ふらめと

がほ（顔）なるも、みづからはいみじと思ふらめど

5 いとくちおし

いとくちおし。

6 法師はかりうらやましからぬ物はあらし

法師ばかりうらやましからぬ物はあらじ。

7 人には木のはしのやうに思はるゝよと清

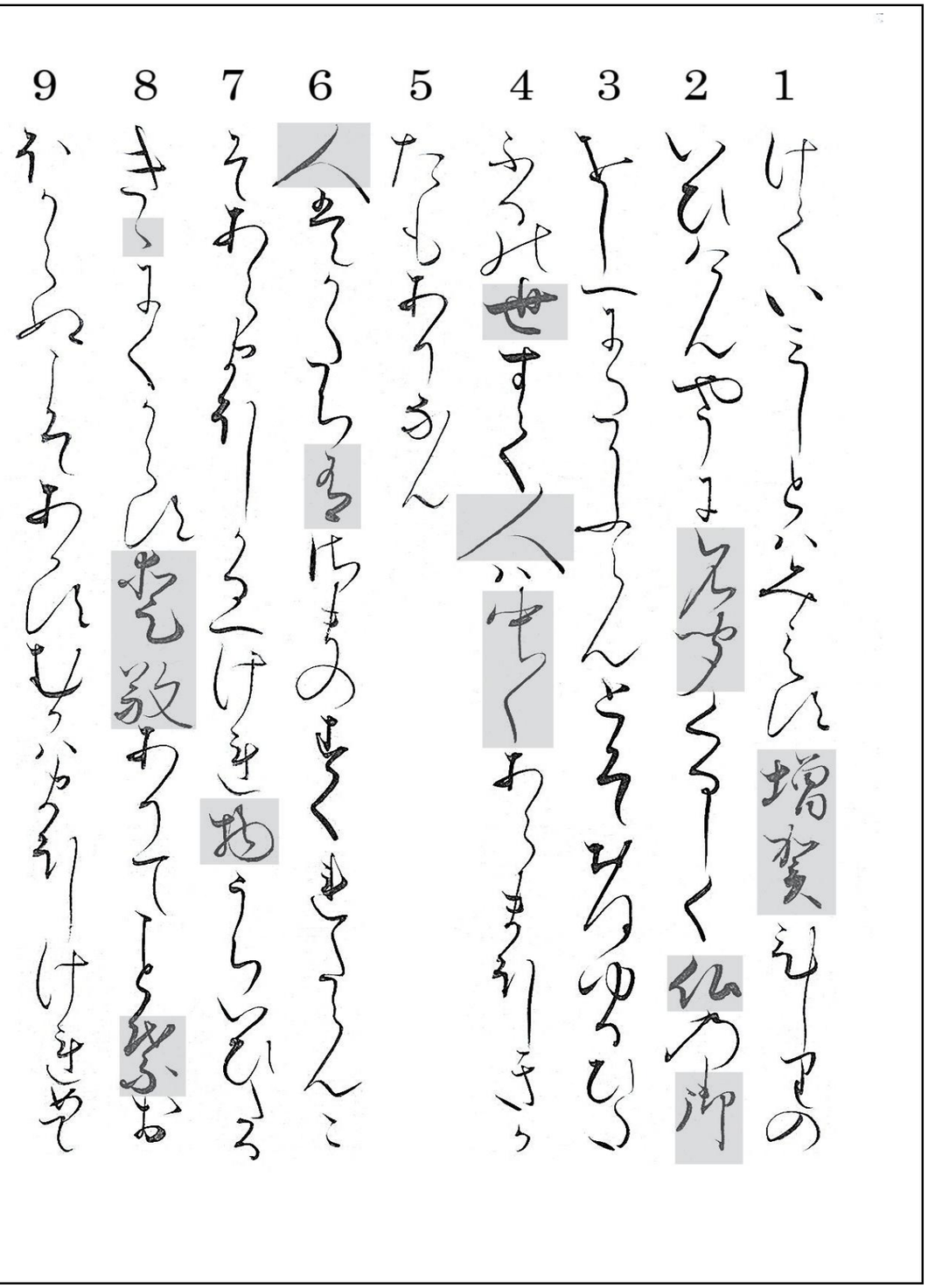
「人には木のはし（端）のやうに思はるゝ（る）よ」と清少納言がか（書）けるも、げにさることぞかし。

8 少納言かかけるもけにさることそかし

いきほ（勢）ひまう（猛）にのゝ（の）しりたるにつ

9 いきほひまうにのゝしりたるにつ

『徒然草』解答



1 けていみしとはみえす増賀ひしりの

けて、いみじとはみ（見）えず、増賀ひじり（聖）の

2 いひけんやうに名聞くるしく仏の御

い（言）ひけんやうに、名聞ぐるしく、仏の御

3 をしへにたがふらんとそおほゆるひた

をし（教）へにたが（違）ふらんとそおぼ（覚）ゆる。ひた

4 ふるの世すて人は中〳〵あらまほしきか

ふるの世すて（捨）人は、中〳〵（中）あらまほしきか

5 たもありなん

たもありなん。

6 人はかたち有さまのすくれたらんこ

人はかたち有さまのすぐれたらんこ

7 そあらまほしかるへけれ物うちいひたる

そ、あらまほしかるべけれ、物うちい（言）ひたる、

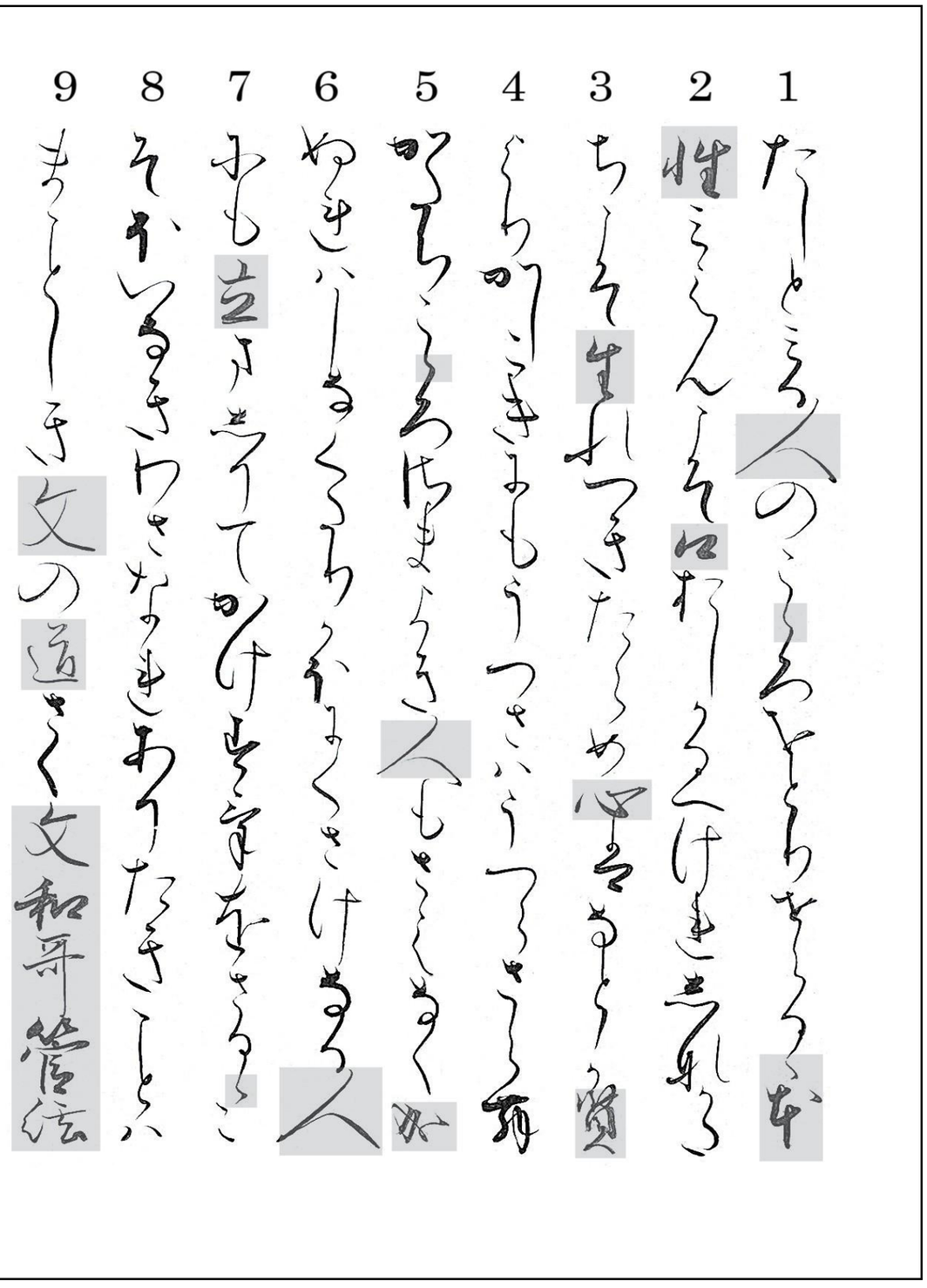
8 きゝにくからす愛敬ありてこと葉お

き（聞）ゝ（き）にくからず、愛敬ありて、こと（言）葉お

9 ほからぬこそあかすむかはまほしけれめて

ほ（多）からぬこそ、あ（飽）かずむか（向）はまほしけれ。めで

『徒然草』解答



1 たしとみる人のこゝろをとりせらるゝ本
たしとみ（見）る人の、こゝろ（こころ＝心）をと（劣）りせらるゝ（る）本

2 性みえんこそ口おしかるべけれしなかた
性み（見）えんこそ、口おしかるべけれ。しな（品）かた

3 ちこそ生れつきたらめ心はなとか賢
ちこそ生れつきたらめ、心はなどか賢〔き〕

4 よりかしこきにもうつさはうつらさらむ
よりかしこ（賢）きにもうつ（移）さばうつ（移）らざらむ。

5 かたちこゝろさまよき人もさえなく成
かたち・こゝろ（こころ＝心）ざまよき人も、ざえ（才）なく成〔り〕

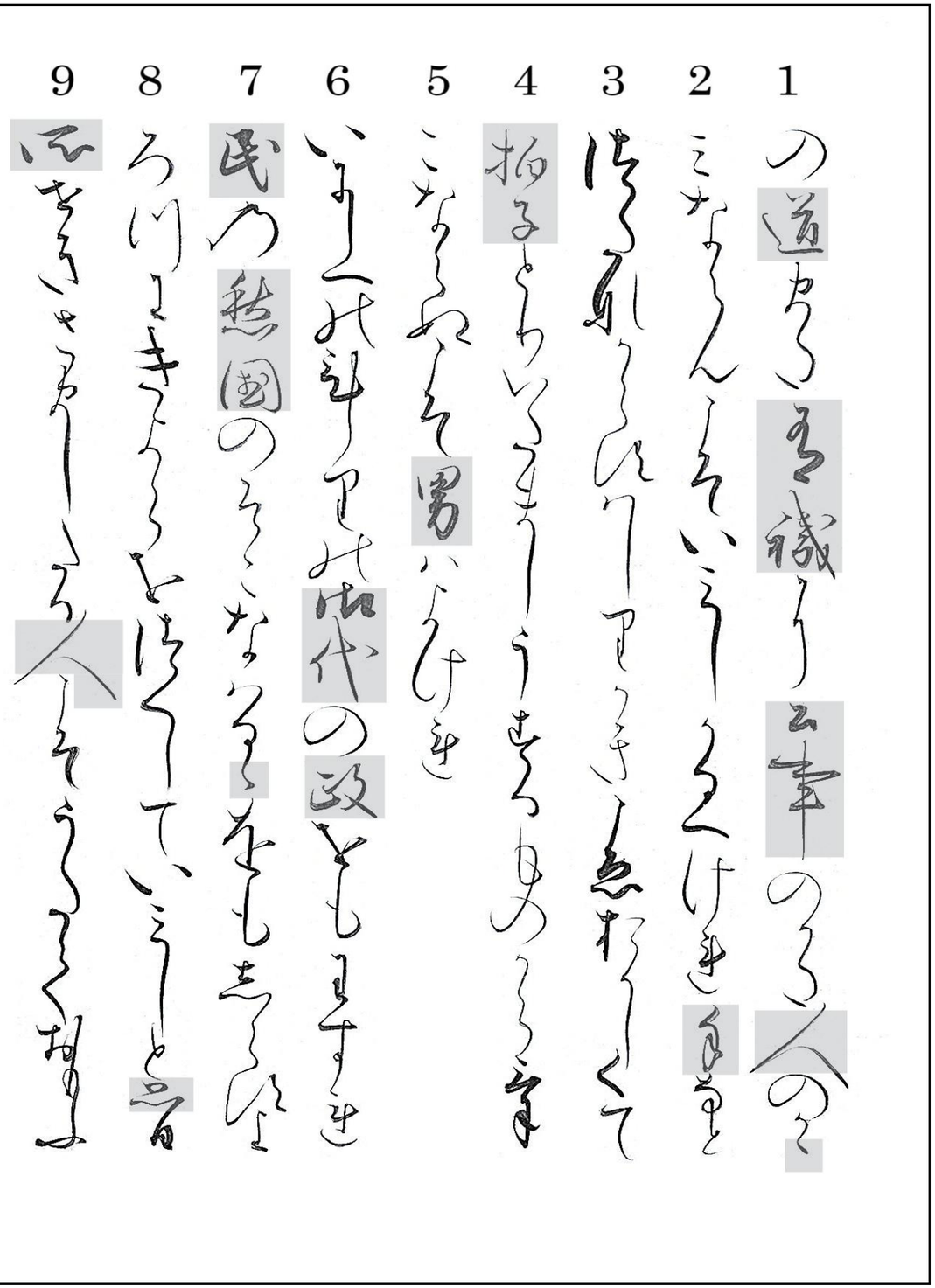
6 ぬれはしなくたりかほにくさけなる人
ぬれば、しな（品）くだり、かほ（顔）にくさげなる人

7 にも立ましりてかけすけをさるゝこ
にも立〔ち〕まじりて、かけずけをさるゝ（る）こ

8 そほいなきわさなれありたきことは
そ、ほい（本意）なきわざなれ。ありたきことは、

9 まことしき文の道さく文和哥管絃
まことしき文の道、さく（作）文・和哥（歌）・管絃

『徒然草』解答

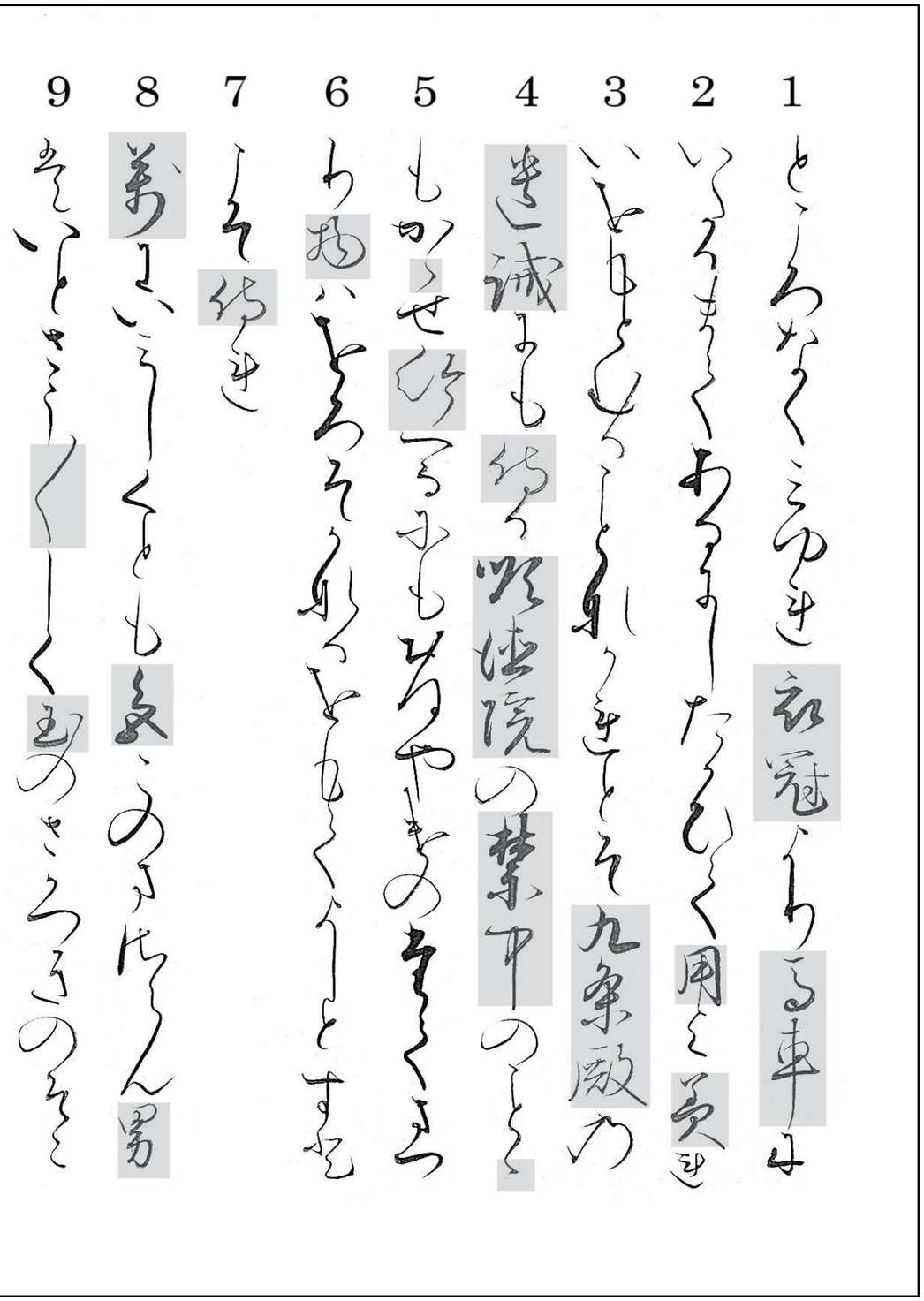


の道。また有職に公事のかた（方）、人のかゞみ（かがみ＝鏡）ならんこそいみじかるべけれ。手などつたなからずはし（走）りか（書）き、こゑ（声）おかしくて拍子とり、いたましうするものからげこ（下戸）ならぬこそ男はよけれ。

【第二段】いにしへのひじり（聖）の御代の政をもわす（忘）れ、民の愁（「へ」）、国のそこなはるゝ（る）をもし（知）らず、よろづにきよらをつく（尽）していみじと思ひ、所せきさましたる人こそ、うたて、おも（思）ふ

1 の道また有職に公事のかたた人のかゝ
2 みならんこそいみしかるへけれ手なと
3 つたなからすはしりかきこゑおかしくて
4 拍子とりいたましうするものからけ
5 こならぬこそ男はよけれ
6 いにしへのひしりの御代の政をもわすれ
7 民の愁国のそこなはるゝをもしらすよ
8 ろつにきよらをつくしていみしと思ひ
9 所せきさましたる人こそうたておもふ

『徒然草』解答



ところなくみ（見）ゆれ。「衣冠より馬・車に

1 ところなくみゆれ衣冠より馬車に

いたるまで、あるにしたがひて用（ゐ）よ。美れ

2 いたるまてあるにしたかひて用よ美れ

い（麗）をもと（求）むることなかれ」とぞ、九条殿の

3 いをもとむることなかれとそ九条殿の

遺誡にも侍る。順徳院の、禁中のことゞ（ど）

4 遺誡にも侍る順徳院の禁中のことゝ

もか（書）ゝ（か）せ給へるにも、「おほやけのたてまつ（奉）

5 もかゝせ給へるにもおほやけのたてまつ

り物は、をろそかなるをもてよしとす」と

6 り物はをろそかなるをもてよしとすと

こそ侍れ。

7 こそ侍れ

【第三段】万にいみじくとも、色この（好）まざらん男

8 万にいみしくとも色このまさらん男

は、いとさうゞ（ざう）しく、玉のさかづきのそこ

9 はいとさうゝしく玉のさかつきのそこ

『徒然草』解答

なき心ちぞすべき。露しも（霜）にしほたれて、

1 なき心ちすすへき露しもにしほたれて

所さだめずまどひあり（歩）き、親のいさめ、世

2 所さためすまとひありき親のいさめ世

のそしりをつゝ（つ）むにこゝろ（こころ＝心）のいとま（暇）なく、

3 のそしりをつゝむにこゝろのいとまなく

あふさきるさに思ひみだ（乱）れ、さるはひとり

4 あふさきるさに思ひみたれさるはひとり

ね（寝）がちに、まどろむよ（夜）なきこそおかし

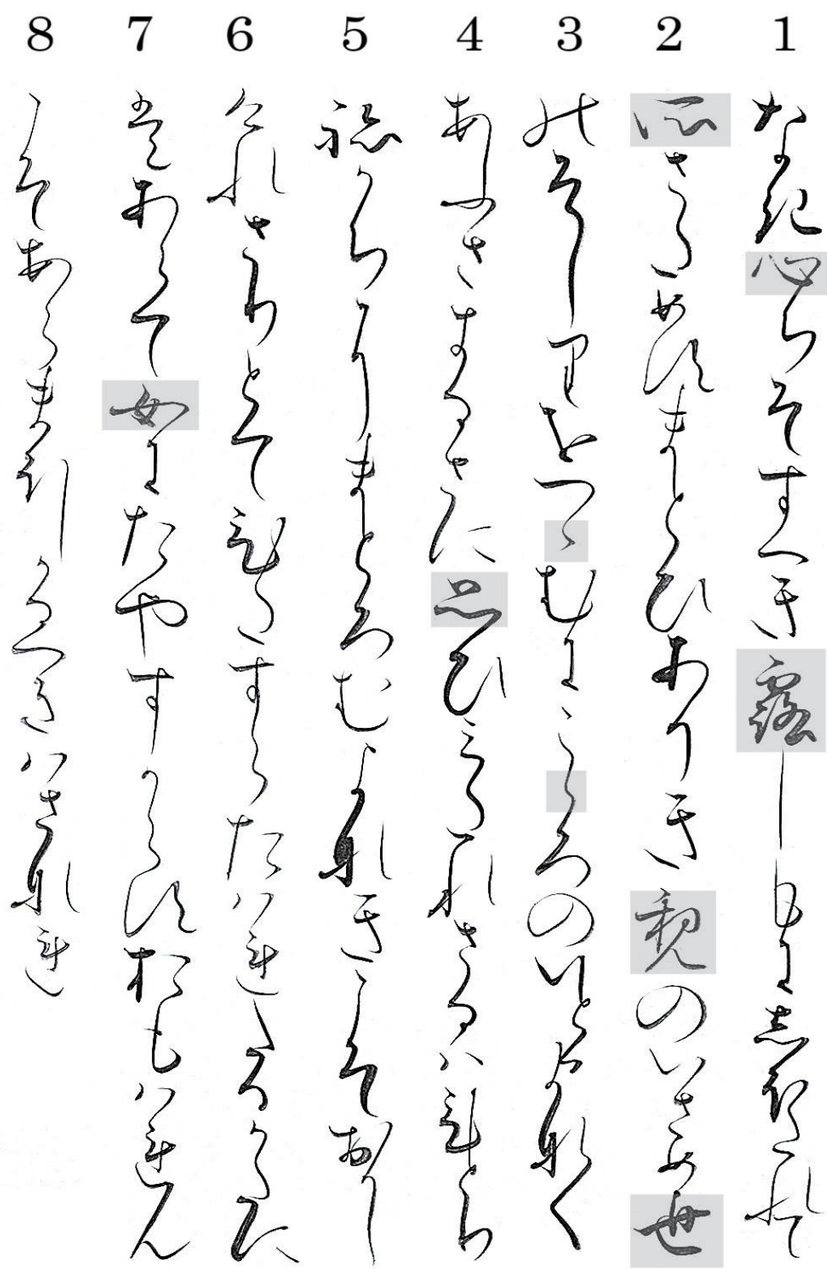
5 ねかちにまとろむよなきこそおかし

けれ。さりとて、ひたすらたはれたるかた（方）に

6 けれさりとてひたすらたはれたるかたに

はあらで、女にたやすからずおも（思）はれん

7 はあらて女にたやすからすおもはれん

こそ、あらまほしかるべきは（わ）ざなれ。

8 こそあらまほしかるへきはさなれ